

区

小学校

先生

横浜市小学校社会科研究会

3 学年部会

**研修会記録**

第6号

令和 元年 12月 4日  
 横浜市小学校教育研究会  
 会長 榮 秀 之  
 横浜市小学校社会科研究会  
 会長 新 井 篤 志  
 同 学年部長 小 泉 斎

【検討日時】

10月 30日 (水)

授業者 小島 早紀 先生(山元小)

馬場 将来 先生(西富岡小)

細水 大輝 先生(稲荷台小)

司会 村松 秀憲 先生(茅ヶ崎小)

益満 順也 先生(三ツ沢小)

栗田 一輝 先生(山下みどり台小)

記録 明神 祐生 先生(神奈川小)

小森 竜也 先生(日下小)

東方 早紀 先生(大綱小)

【会 場】

丸山台小学校

【指導案検討】

山元小 小島 早紀 先生の授業指導案検討

単元名「お買い物アンテナで探そう スーパーマーケットのひみつ～まちの冷蔵庫を目指すEスーパー～」

【前回からの変更点】

- ・本時で扱う材は元々ひき肉の予定だったが、ひき肉を使う量を子どもがイメージしづらいと考え、惣菜を取り上げることにした。

【グループ討議】

- ・惣菜の中でも揚げ物に焦点化したほうがよいのではないか。
- ・本時の学習問題の「いろいろな売り方」という言葉は、量や個数の差だけでなく、安売りなどの値段の差と捉える子どももいるかもしれないので、具体的にしたほうがよいのではないか。
- ・家の人にインタビューをして、各家庭がどんなことを考えながら惣菜を購入しているのかについて聞いてみるのも面白い。

【指導案検討】

西富岡小 馬場 将来 先生の授業指導案検討

単元名「横浜市のようなすの移り変わり～海岸線から見える横浜市の発展～」

【検討内容】

- ・「海岸線」に着目して、埋め立ての仕方から横浜の発展を考える内容。
- ・根岸湾周辺と金沢地先周辺の埋め立ての違いから、子どもたちの思考を働かせて、自然を残す等を考えられるようにしたい。

【グループ討議・講評】

- ・本気の学習問題や資料が面白く、追究しやすい教材がそろった。

- ・しかし追究の仕方によっては、3年生の「市の様子の移り変わり」を扱うための地域単元でなく、6年生の日本全国の流れから横浜市の条例等、政治単元になってしまうのではないか。
- ・「自然を残しながら、横浜らしい町」は行政の視点になる。
- ・交通や土地利用等の事実と事実のつながりが大切ではないか。
- ・出口を意識できると良い。6年の政治単元の内容にならないように、ブレが出ないようにするためにも必要なこと。
- ・本気の学習問題の前時までが大切。

【指導案検討】

稲荷台小 細水 大輝 先生の授業指導案検討

単元名「横浜市の様子の移り変わり～まちを走っていた市電を追って～」

【検討内容 細水先生から】

- ・前回の指導案検討を受けて、今と昔の横浜市の鳥瞰図を見せて全体を比べてから、身近な資料である稲荷台小学校の近くの写真資料を扱うことにした。
- ・本時では、交通や土地利用、生活などの事実をつなげるところを扱う内容にしていきたい。
- ・本時の学習問題「生活の足と言われるほど多くの人々が利用していたのに、どうして横浜市電はなくなったのかな」が子どもたちから出て来るかどうか。

【検討内容 本時について（学習問題）】

- ・表には、ない市電がなくなった事実の伝え方は、Yさんの話の中から。その時までには、愛着を高めておくことと学習問題につながるのではないか。
- ・愛着を高めるために、市電のよいところにも触れておくと良い。

【検討内容 本時について（資料）】

- ・人口の増加まで考えさせると広がりすぎてしまうため、車の普及と路線に絞った方が本時の学習問題について考えられるのではないか。

指導講評

学年担当校長：星川小校長 小西 俊光 先生より

- ・本時の出口＝どんな子どもをねらっていくのかをしっかりと本時目標と照らし合わせて考えることが重要。同時に、子どもの姿をイメージするかが単元目標、評価規準に明記されていることが大切。
- ・教師が面白いと感じた教材を取り上げることも大切だが、もう一度子どもを思い浮かべ、自分のクラスの子どものに適した教材が見極めることが大切。自分のクラスの子ども一人一人のこだわりや見方・考え方の傾向などをしっかり把握し、どんな社会的事象を取り上げれば、問題意識が生まれたり子どもの見方・考え方が深まっていくかという視点で教材を見極める必要がある。

学年担当校長：笠間小校長 黒田 由希子 先生より

- ・何を提案していくか視点と本気の学習問題をしっかりと吟味することが重要である。
- ・人の営みから学ぶということは、人と関わりながらどう学習していくのか。
- ・本気に至る前時にどんな活動をしたのが重要になってくる。
- ・子どものふり返りの視点をつなげていくことで子どもの次の学習への見通しが立つようになる。

文責 村松 秀憲（横浜市立茅ヶ崎小学校）